



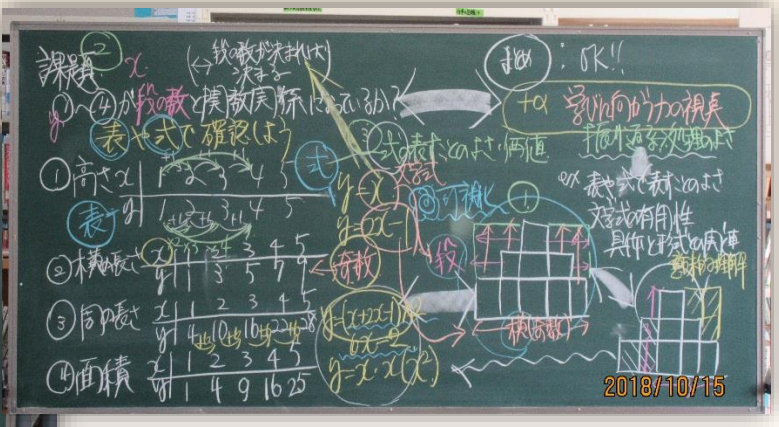
第1学年 「比例と反比例」 岡村 佳 教諭  
「比例と反比例」の単元の導入の場面の提案でした。並べた正方形の段数を増やしていく場面を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を生徒自らが見だし、変化や対応に着目しながら関数関係の意味を理解できるようにすることをねらいました。

「事象の中から関数関係にある2つの数量関係を見出すことができているかどうか」という点について協議がなされました。「まずは、正方形の段の数を変えて生徒自身がかいてみることで、生徒自らがどのようなことに着目していけばいいのかということを見出すことができるのではないか、そうすることで、実際にかかなくても他の数量との関係を使って周りの長さ等を求められるのではないかな」などの意見が出されました。



**学習内容に関するまとめだけでなく、なぜできるようになったのか授業の中で使ったアイデアをまとめていく!!**  
本時における問題解決の過程を振り返ることで、文字式の有用性（文字式で表すことで二つの数量関係を捉えられたこと）や、具体の図と表・式を関連させることで二つの数量の変化や対応の特徴を捉え、関数関係であるかどうかを確かめることができたことについてもまとめていくこと。

齊藤一弥学力向上総括専門官による  
指導板書



**授業者の声**  
今回の授業に向けて、単元のデザインを考え、単元全体を通して生徒に付けたい力が何かということを考えながら教材研究をしました。考えた単元構成で実際に実践してみた後に、生徒の反応や定着の状況と授業でのアプローチをあわせて振り返り、どの方法が適切であるかを選択することの難しさも感じます。事後研究会において、新たなアプローチを教えていただいたので、他の単元でも生かしていきたいと思います。今回の学びを、今後の実践に生かし、生徒に返していけるようにしていきたいです。

**参会者の声**  
・小学校での学びを基にすることで、生徒が学習に向かいやすくなると感じました。  
・表で表すこと、図による可視化、式をつくること、これらに関連付けることで、それぞれのよさを生徒に実感させていきたいです。

